

平成27年5月閉会中 初顔合わせ 産業労働企業委員会の概要

日時 平成27年 5月29日(金) 開会 午前10時 0分
閉会 午前11時 12分

場所 第5委員会室

出席委員 新井一徳委員長

新井豪副委員長

浅井明委員、内沼博史委員、中屋敷慎一委員、宮崎栄治郎委員、鈴木聖二委員、

山根史子委員、畠山稔委員、美田宗亮委員、権守幸男委員、松坂喜浩委員

欠席委員 なし

説明者 [産業労働部関係]

立川吉朗産業労働部長、加藤和男産業労働部副部長、

渡辺充産業労働部雇用労働局長、正能修一参事兼産業支援課長、

板東博之産業労働政策課長、岡田逸夫商業・サービス産業支援課長、

村瀬泰彦先端産業幹、新里英男企業立地課長、目良聡金融課長、

今成貞昭観光課長、斎藤和也勤労者福祉課長、三宅瑞絵就業支援課長、

野尻一敏ウーマノミクス課長、堀口幸生産業人材育成課長

黒澤治労働委員会事務局長、

發知和弘労働委員会事務局副事務局長兼審査調整課長

[企業局関係]

中野晃公営企業管理者、井上桂一企業局長、吉田正管理部長、

久保田広志水道部長、前沢幸男総務課長、西岡利浩財務課長、

鈴木柳蔵地域整備課長、相馬正治水道企画課長、矢口正道水道管理課長、

大嶋靖之主席工事検査員

会議に付した事件並びに審査結果

1 議案

なし

2 請願

なし

所管事務調査

日中観光文化交流団について

報告事項

なし

その他

平成27年度産業労働部、労働委員会及び企業局の事業概要について、執行部から説明が行われた。

【所管事務に関する質問（産業労働部関係）】

中屋敷委員

- 1 知事が日中観光文化交流団で中国に行ったことは、隣国との関係でもあるから良いと思う。ただ、私の中で唐突な印象があるが、埼玉県知事の公務として参加したのか。
- 2 我々の議員間交流でも、姉妹友好州省の山西省と友好を保つための関係を作ってきている。私や畠山委員も、隣国との関係を良好にしようという考えの中で行ってきている。政情不安により交流が途絶えた中で、知事が交流団に参加したというのは、どんな意図があるのか。オリンピック、パラリンピックのときに100万人の観光客を呼び込むと知事は記者会見等で話しているが、具体的なイメージが我々には伝わっていない。説明をお願いします。

観光課長

- 1 知事は、公務として参加した。
- 2 どのような経緯で参加したのかについては、昨年11月に太田国土交通大臣と中国の李金早中国国家旅遊局長、この役職は日本でいうところの観光局庁長官であるが、会談して、冷え切った日中関係の中で相互の交流を拡大しようということで合意がなされている。それを受けて、日本旅行業協会、全国旅行業協会及び日本観光振興協会の3者が実行委員会を作り、旅行業界あるいは衆議院議員の方々なども含め、3千人規模の派遣団を中国に派遣して、様々な交流事業を通して日中間の友好親善を図ろうということで計画がなされた。そうした中で知事も日中友好の一つとして公務として参加した。また、投資セミナーとシンポジウムという埼玉県をアピールする絶好の機会があったので、中国からの観光客の誘致、企業立地のPRを行った。

中屋敷委員

知事は、埼玉県観光などのプレゼンを行ったのか。

観光課長

具体的には、2回プレゼンを行う機会があった。

5月22日にジェトロ主催の投資セミナーで中国の旅行会社約100社を対象として、投資及び観光のPRとしてプレゼンを行った。埼玉県に多くの先端企業が立地している状況、交通アクセスの良さ、川越・長瀨に代表される観光地について、併せてアピールした。また、クレヨンしんちゃんが県の観光サポーターに就任しているが、中国ではクレヨンしんちゃんは非常に人気があるので、紹介したところ反響があった。

もう1か所は、翌日の5月23日の日中地方創生観光シンポジウムにおいて、北海道、奈良県、福井県の知事や山西省の観光局長とともに、パネリストとして参加した。こちらのシンポジウムでは観光に特化して、「埼玉に是非お越しください」とPRを行った。

中屋敷委員

疑問に思っていた部分は伝わってきた。

企業立地については、中国にまだ企業立地を進めていくという考え方が産業労働部にあるという認識でよいのか。

観光課長

投資セミナーは日本に対して投資を呼び掛けるもので、埼玉県として門を閉ざしている訳ではないのでPRを行った。

中屋敷委員

今まで冷え切った関係であったところが新たに改善していく、そうしたトレンドに県も乗っていくという判断でよいのか。

産業労働部長

オリンピック、パラリンピックに向けて100万人の観光客を呼び込むという大きな目標を掲げている中で、中国からの観光客は非常に大きなウェイトを占めると考えている。これをきっかけに更に進めていければと考えている。

中屋敷委員

最後に、知事が帰国してから何日か経過しているが、部長と意見交換は行ったのか。

産業労働部長

本件に特化して話してはいないが、知事は同じ考えを持っていると認識している。

内沼委員

先ほど公務として参加という話があったが、職員の随行は何名だったのか。

観光課長

職員の随行は、1名である。

内沼委員

部長は知事との懇談を行っておらず、これからとのことだった。しかし、中国との関係については重要な案件であると思う。今後、担当部局とのコンセンサスを得たり、議会に対する報告を行うなどの予定はあるのか。

産業労働部長

今後の在り方については、中国との関係を拡大していくということであれば、当然、議員の方々と調整・相談しながら進めていきたい。

観光課長

知事に随行した秘書から、新たな発見が一つあったと報告があった。中国の個人旅行者は、我々の認識では、インターネットで検索して、好きなところを選んで日本に来るのがトレンドだと考えていた。しかし、実際は旅行代理店が仕切っているということが、今回初めて分かった。旅行代理店のリストを入手した。中国に行くのは難しいが、東京に支社がある大手代理店が多数あった。そこにプロモーションをかけて、特に知事がPRした川越・長瀬などに、中国観光客、団体ツアーを呼び込んでいきたい。

浅井委員

埼玉県知事として友好親善などの公務で参加したとのことだが、昨年の11月や出発少し前の時点で、議会へ事前の説明をしたのか。しなかったのか。

観光課長

今回の訪問団の話があったのは5月上旬である。非常に時間のない中準備を行っていたので、残念ながら議会への話はできなかった。

浅井委員

緊急性があったので、事前の報告がなかったということによいか。

観光課長

実質、準備期間が10日程度の期間しかなかったということである。

浅井委員

成果、効果及び今後の対策について、どのように考えているのか。

観光課長

一昨年来、観光業者に対する営業を強化している。我々の間ではよく飛び道具と言っているSNSやホームページなどは割と効果があるが、実は地道な営業が大切である。観光で成功しているところは、ほとんどフェイストゥフェイスで人を呼ぶということを行っている。一昨年度から営業をしており、例えばタイからは約240人、韓国からは約800人、川越へ団体旅行で来ている。中国についてもネットワークができたので営業をかけ、団体客・個人客を呼び込みたい。

浅井委員

成果と効果を知事はどのような形で発信するのか、もう一度確認したい。例えば、インターネットなのか、ペーパーなのかあるいはメディアを活用するのか。

観光課長

成果については、その時の状況より、どのPRの仕方がベストなものなのか考えながら進めていきたい。